

私たちのESD宣言

—コロナ時代の今高校生が行うべきESD活動とは—

現在もなおコロナ感染拡大が広がっている状況で、医療問題や経済問題、社会問題、教育問題など、さまざまな問題が引き起こっており、人々の不安と社会問題がますます拡大している状況です。

このような時代であるからこそ、これからの社会のあり方を見つめ、私たちにできるESD活動を考えていく必要があるのではないのでしょうか。

岡山学芸館高等学校



ESD アクション宣言

『コロナ時代における持続可能な人間社会のあり方を考える』

岡山学芸館としてのESD活動

西大寺地域活性化協議会への参加

西大寺地域の活性化を図るため、地元企業の経営者、商工会議所、学芸館生徒が意見を出し合い、西大寺地域の発展に向けて、どうすればよいかの定期的な議論を行っています。

西大寺子ども食堂への支援活動

コロナの影響で家計が苦しくなり、子どもの貧困が深刻化している今日において、何か地域の子どものためにできないかと考えました。そこで、地域の方々や高校生から文房具や人形、おもちゃなどをを集め、地域の子どもたちに無料で配布する取り組みなどを行っています。

今回の実践交流会での実践発表、ブレイクアウトセッションを通し、私たち高校生主体で、このコロナ禍でもできる地域活性化や地域のまちづくりを行っていくことが大切であり、必要であることが分かりました。このコロナ禍でもできる地域活性化や地域のまちづくりを通し、持続可能な社会をつくるため、私たちに求められているのは、この高校生ならではの考察力や行動力、協働力を使い、問題解決を図っていくことだと思います。そして、コロナ禍であるからこそオンラインを積極的に活用したり、地域に住む人々と積極的に連携したり、私たちができる身近なESD活動を展開することで、これからの未来ある社会が大きく変わっていき、持続可能な社会をつくっていくのではないのでしょうか。

私たちの学校では、毎週水曜日に行われるグローバル課題研究という探究授業で14のゼミに分かれてそれぞれの活動を展開しています。私たちは循環型社会形成ゼミに参加しており、これからの活動として、2月に地元の小学校へ出前授業へ行く予定です。コロナ禍の問題や環境・貧困などの世界の問題について小学生と高校生が共に何をすべきか考えるものです。その地域との繋がりを大切に、コロナ禍で衰退した地域を少しでも活性化させ、持続可能な人間社会をつくっていきたくと思いました。



SDGsだより

2020年12月25日(土)

コロナ禍におけるESD活動



ユネスコ部を創部しました！

ユネスコ部で、コロナ禍における活動をどのように実施するのかを話し合いました。その結果、「コロナ禍」において、新しくできることを考えるよりも、本校では、昨年まで行ってきた活動を、工夫して継続するという意見が多かったです。それ以来、コロナ感染症という新たな視点が増えたことに対する工夫が大切だという認識を共有しました。今できる新しいアイデアをみんなで考え、実践してきました。また本年度、創部したユネスコ部独自の取り組みとして、エコバック普及活動をスタートさせました。そして今後は、SNSを効果的に活用して、活動を発信していきたいと考えています。

『ESDアクション宣言2020』

SNSを効果的に活用して ESD活動を紹介、普及する！

コロナ感染症に対する正しい理解を持って、工夫することが大切



観光甲子園 訪日観光部門
上位30作品 「優秀作品」
『見上げよう！浅口の星空』
(Starry Sky in Asakuchi)
チーム名:エトワール

他校との事前学習会の意見のなかにもあった、「SNSを効果的に活用する」というアイデアを実践してきました。工夫した成果が発揮されたのは、『観光甲子園』の訪日観光部門において優秀作品に選出されたことでした。活動が制約されるなかでの入賞は、私たちに活力を与えてくれました。作品は、公式サイト及びYouTubeページで公開していただいています。これからは、さらに表現を工夫して、InstagramやYouTubeなどSNSを効果的に活用して、多くの人に発信していきたいです。

『フェアトレード』・ 『服のチカラ』活動

令和3年度 活動目標①



文化祭でのフェア
トレード商品の委
託販売(4年目)



「服のチカラ」
プロジェクト
(8年目)

アケシソウを守る会の 活動に携わろう！

令和3年度 活動目標②

『除草作業参加を再開する』



花房泰志会長にインタビュー！

美作高等学校 英語ユネスコ部



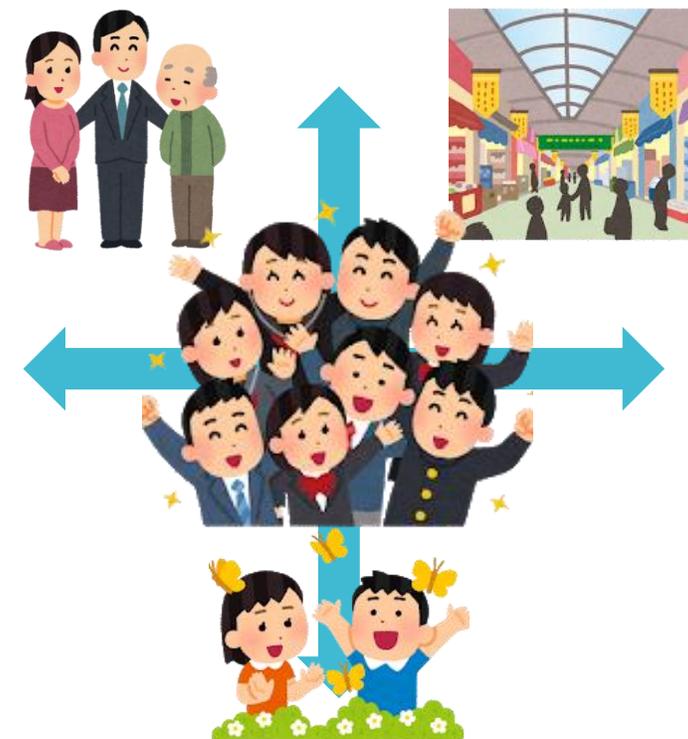
アクション宣言

「タテとヨコのつながりを大切に！！」

→縦：クラス、学年、学校単位

→横：自分や学校の周り、市

交流を深めて、それぞれの問題を協力して解決し、助け合える学校・町を作る。



学習会で学んだこと

- ・今の社会だからこそその活動(コロナ禍を活かす逆転の発想)ができること
- ・その地域に根付いた活動を考えること
- ・部活だけでなく学校全体で動いて活動を広げること



これからの予定

- ・書き損じはがきの寄付を募る
- ・津山を訪れた海外観光客に向けて、英語で津山の観光地マップを作る。
- ・現代創造コースと協力して法福寺（真庭市）の欄間の修復

学習会で学んだ内容

参加した学校の多くは、企業と連携して実際にはESDの取り組みに関わっているところや、たくさん若い人に自分達の活動を知ってもらうためにSNSを活用している学校もあった。多くの高校で、自分達の取り組みが実感できる形となっていたので「宮ユネスコ部」としては、他校の活動を取り入れて発展したいと思った。

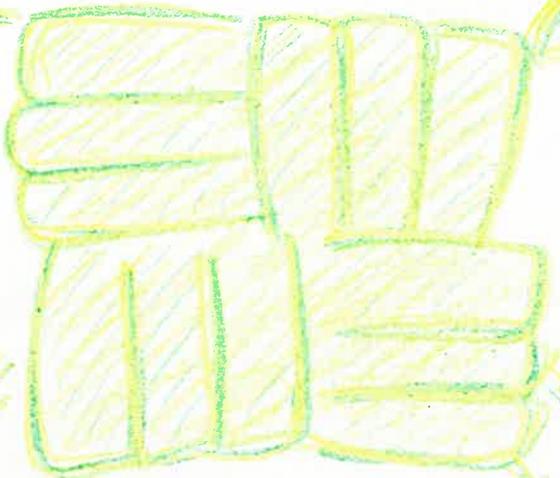
アワシヨニ宣言の背景

他の学校の皆さんがSNSを活用しているのを知り、私たちの活動もSNSを利用することでさらに多くの人に広められると思った。SNSでの啓発活動を検討してもらえるようにこれから活動も頑張っていく。

取り組みに関する
これから予定

学校行事で「シラズリボ」を配る!

岡山-宮高校ユネスコ部



《林野街歩きガイド配信！》

コロナ禍で

林野地域への旅行・観光を断念...

諦めなくていいんです！！

オンラインで擬似旅行を配信！

Chromebook × 地域

《オンライン交流会！》

子供達への読み聞かせ

お年寄りの方とのおしゃべり...

おまかせください！！

オンラインで交流会を開催！

「地域との連携でSDGsを広める!!」

★真庭市とSDGsの関連性は?

真庭市は持続可能な開発目標の達成に向けた優れた取り組みを行う都市として全国29都市の「SDGs未来都市」に、またその取組自体も先進的なものとして全国の専業の「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。

★SDGsについて詳しく!

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

★SDGs 17の目標の内一部を紹介します!

3 すべての人に健康と福祉を



2 飢餓をゼロに



in 真庭高校

★真庭高校生徒が取り組んでいこうこと

TRという総合的な探究活動を行っています。TRとは「TRY&Report」の略で「Try = やってみる」ことを「Report = 伝える」活動を行っています。

生徒は地域貢献やキーワードに地域に絡り出し様々な体験をし、自分たちが何をできるか考え地域の方と連携し取組み、それを発表として形にしています。

★最後に

真庭高校はSDGs 17個のゴールを達成するために日頃より地域の方と取り組んでいます。



壁があつたらぶっこわせ！！

～問題があつてもあきらめず解決策を探して進め～

・学んだこと・

他のESDスクールの学校はガチャガチャを使って地域の特産品を宣伝したり地元の企業や団体との連携をして文化や伝統を発信していくといった様々なアイデアで地域の振興や課題解決に取り組んでいた。矢掛高校もコロナ禍で行事が中止や縮小されたが生徒たち皆で多様なアイデアを出し合っている。来年は逆に例年よりも充実した1年にしたいと思った。

・解説・

問題を「壁」に、解決することを「ぶっこわす」という言葉にたとえた。現在、コロナウイルスの影響で出来ることは限られてきている。その中でも私たちに出来ることはあると思う。直面してしまった壁（問題）があつた時にはまずは自分たちなりに解決策を考えて、出来ることはやっていきたいという思いでこの宣言にした。

・これからの予定・

壁1 : オープンキャンパスや進路に関する講演会などが減って進路について考える時間が減った。

解決策 : ①リモートで進路講演会を行う。
②自分で調べる。

壁2 : イベントが減って人と関わる機会が少なくなった。

解決策 : リモート内で出来るイベントを考える。

これからはこのように**壁**に対して解決策をまず自分なりに考え、実践できることがあれば実践していく。

和気閑谷高校のアクション宣言

継続・浸透



障がい者野球

- ・もっと知ってもらおう！
- ・さらなる道具の開発
- ・外部団体によるクラウドファンディングへの協力

ガチャガチャマシン

- ・種類の増加
- ・地域の企業と協力
- ・売上金をどこへ寄付するか
- ・支援学校や作業所との連携

コロナのおかげで気付けた新たな可能性

- ・オンライン、インターネットの活用

これから何か新しいものにチャレンジするよりも、今やっている、障がい者野球を通しての活動やガチャガチャを使った活動により力を入れ、継続していこうという考えです。また、その活動を知ってくれている人も少ないので、もっと色々な人に知ってもらいたいという意味を込めて継続・浸透にしました。外部団体や地元企業とのコラボレーションを with コロナの時代に合った形で積極的に行っていきたい。

UNESCO

~ NEWS LETTER ~

学習会で学んだこと...



県内の高校生と交流して、ESD活動について、さまざまな意見がありました。岡山龍谷高校は、社会がどれだけ変化しても、「持続可能な町にある!!」という事を、一人ひとりが考える!!という目標を立てています。その中で、龍谷高校が行っている取り組みについて紹介します。

たっちゅあほんと

生徒会主導のもと、学校の先生と生徒達が約20の班に分かれて活動しており、地域の感謝の気持ちと、ボランティア精神を育む活動として、岡山龍谷高校の生徒達にも引き継がれています。

RINGS

2年次からは、進路指導や自分の興味関心に基づいた「系」を選択。それぞれの「系」が大学、専門学校と連携。より専門的な学習や実習・体験を行うことができます。

その他の取り組み

- 白石島ESDプログラム
「島の未来は日本の未来」への参加
- 地域の環境問題に取組む!
「笠田清掃隊」の発着。

岡山龍谷高校の生徒が、一人ひとり

「持続可能な町にある」ことを考える!!!



【学習会で学んだこと】



- ・どの学校もさまざまな取り組みをしていることが分かった。
- ・他校の活動は、自分たちだけではなく他人に目を向けて支援や学習をしているものが多い。
- ・自分たちの高校についてだけでなく、高校のある街や地域についても紹介されていて、どこでどのような活動が行われているかがわかった。また、そこから、現状と取り組むべき課題を知ることができた。

- ・高校生の間だけではなく、地域の人とも意見を出し合っ共活動することが大切だ。
- ・自分の所属するグループだけでなく活動するのではなく、学校内でも、他の部活、他の委員会などなるべく多くの人に協力を呼びかけ、何ができるかを共に考えて実行することが大切だ。
- ・コロナの時期でも、何ができるかをポジティブに考えることが大切だ。発想の転換をしてコロナの期間をプラスにとらえる。



- ・コロナを違う視点から見ることでコロナを活用した
- ・発想の転換をしてコロナの期間をプラスにとらえる。
- ・オンラインでも対面でも学びの質は変わらない
- ・コロナの良し悪しをきちんと知ることで前向きに楽観的にとらえることができる
→マイナス思考からプラス思考へ

【アクション宣言の背景】

- ・他校の意見や活動を参考にして、私たちも地域とのつながりを大切にしたいと思った。
- ・せっかく海外との交流を大切にしている清心だから、世界にある姉妹校と協力してSDGsに関連するモノづくりをしたい。それを世界に発信して、世界中で問題を抱える人々を助けるために役立てたい。



- ・清心らしい奉仕の心を持って行う活動を、清心の中だけでなく世界に広げたい。
- ・特に今は同じ「コロナ」が世界中で問題になり、様々な形で大きく影響をしている。お互いの文化や状況の違いを知った上で、問題を共有して自分たちにできることを考えたい。

校のESD活動を聞いた時に「楽しそうだな。」と思ったり、「清心でもできるな」「取り入れたいな」
と思ったのが『商品開発』だった。特にガチャガチャを活用して町をPRしたグッズを販売したり、エコバック作りをしたりしていたのが印象部かかった。そこで清心に足りないと思ったのは、「地域に根づいた活動」だと思った。

清心がある倉敷市にはたくさんの誇るべき観光地や企業の技術がたくさんあると思う。その魅力を日本、世界に発信しないのはもったいないと思う。コロナ禍でできる街に貢献できる活動は何だろうと考えた結果、「宣伝」にたどり着いた。コロナが終息したあとに「絶対に倉敷に行きたい」と思わせる活動をすれば倉敷市に貢献できると思った。そして今の私たちの売り“JKブランド”、“清心らしさ”と倉敷の魅力をコラボさせればコロナ禍でもできる倉敷の宣伝ができると思う。

